

高齢化社会が本格化する中で、高齢者が満足感をもって日々の生活を生き、尊厳をもって自らの生を締めくくるための制度や文化は、まだ十分に成熟しているとは言えない。本フォーラムでは、高齢者本人のみならず、家族に対しても大きな精神的・倫理的課題を突きつけることになる認知症と、それにもなう胃ろうの設置、尊厳死の問題を本格的にとりあげる。また、こうした終末期の課題をしっかりと受けとめるためにも、そこに至る長い老いの時期を、いかに積極的に生きることができるかを、それを実践している先端的な現場において考えていきたい。

# 高齢を生きる 認知症・医療的介入 (胃ろうなど)・尊厳死を見据えて 制度と現場のはざままで

講師 **根岸 宏邦** (豊中愛和会理事長)

特別養護老人ホーム(特養)100床、介護老人保健施設(老健)50床、障がい児(者)生活介護と短期入所80名その他高齢者サービスなどの運営を行っている。

国家財政の窮迫により高齢者医療費の抑制は、これら介護福祉施設への期待と要望を増大させている。しかし入所には制度的ハードルもあり待機者も多い。医療的ケア(胃管を含む経管栄養、酸素投与、呼吸管理、投薬、点滴etc)の必要な利用者(患者)が入所することは施設の経済的およびマンパワーの面で施設運営を圧迫すると同時に、植物状態に近い方への医療的ケアには虚しさを伴う。そこで「回復の見込みのない患者へのムダ(?)な医療、介護は本人も家族も望んでいないのではないか」という空気が醸成されつつある。このような状況に過剰に反応する例もあれば、安易な延命中止の思想は、「障がい者の命の切捨て」や「肩身の狭さ」に繋がるのではという障がい者側からの懸念の声もきかれる。そもそも「意味のない生」とは何か?「本人、家族が生命を終わらせたい」と望めば、かねて用意の判断マニュアルに当てはめて「はいそうですか」と終わらせて良いものかどうか?残りの生(医的ケアを行った場合と行わなかった場合の)の質と期間(この判定が極めて困難)が重要なポイントではあると思うが、単純に割り切れない。いくつかの具体的な事例を提示したいので、多くのご意見を聞かせていただきたい。

日時 2012年 12月15日(土) 13:30~17:30

場所 関西セミナーハウス 会場への地図は裏面をご覧ください。

参加費 2,000円、学生 500円(コーヒー込み)

\*12月12日までに FAX(裏面)、電話、電子メール等でお申し込み下さい。



根岸 宏邦 NEGISHI Hirokuni

昭和14年(1939)生まれ。神戸大学大学院小児科専攻終了後、米国マイアミ大学小児科、神戸大学小児科講師を経て、1978年より社会医療法人愛仁会高槻病院小児科医長、院長、理事長。専門領域(小児科:新生児医療、小児神経学)神戸大学小児科臨床教授。2007年より現在まで社会福祉法人豊中愛和会(高齢者、障がい児者、保育園)理事長、神戸大学保健学科大学院講師(非常勤)。

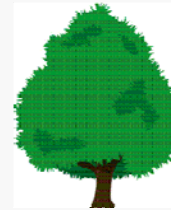
高齢を生きる 認知症・胃ろう・尊厳死を見据えて

第4回 2013年1月19日(土)

「「尊厳死」思想の形成と変容 尊厳死と安楽死」(仮)

講師 大谷いづみ(立命館大学産業社会学部教授)

2013年度プログラム企画も只今準備中です。



【申込み・問合せ】

(財)日本クリスチャンアカデミー  
関西セミナーハウス活動センター  
〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23  
<http://www.academy-kansai.org>  
電話 075-711-2117  
FAX 075-701-5256  
電子メール office@academy-kansai.org  
所長代行 榎本 栄次  
担当 都木かおり



\* 地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎いたします。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせ下さい。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、北山駅のほうがタクシーを拾いやすいです。

2012年度 修学院フォーラム「高齢を生きる」第3回 参加申込書

(フリガナ) 名前	所属
住所〒	
電話( ) - FAX( ) - 携帯( )	
電子メール:	@
通信欄:	